

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 24 年度(2012 年度)第 2 四半期)

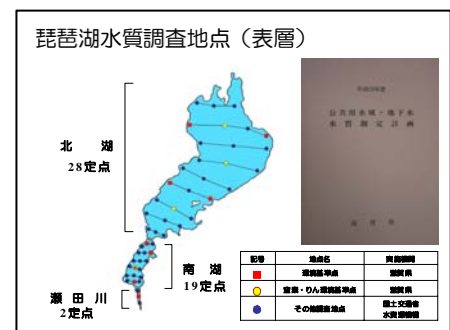
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 24 年度第 2 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m地点今津沖中央(通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 24 年度第 2 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果

透明度については、7 月は過年度(過去 10 年間)平均値並の値を示しましたが、8 月は過年度平均値より低い値となりました。9 月は概ね過年度平均値並の値となりました。

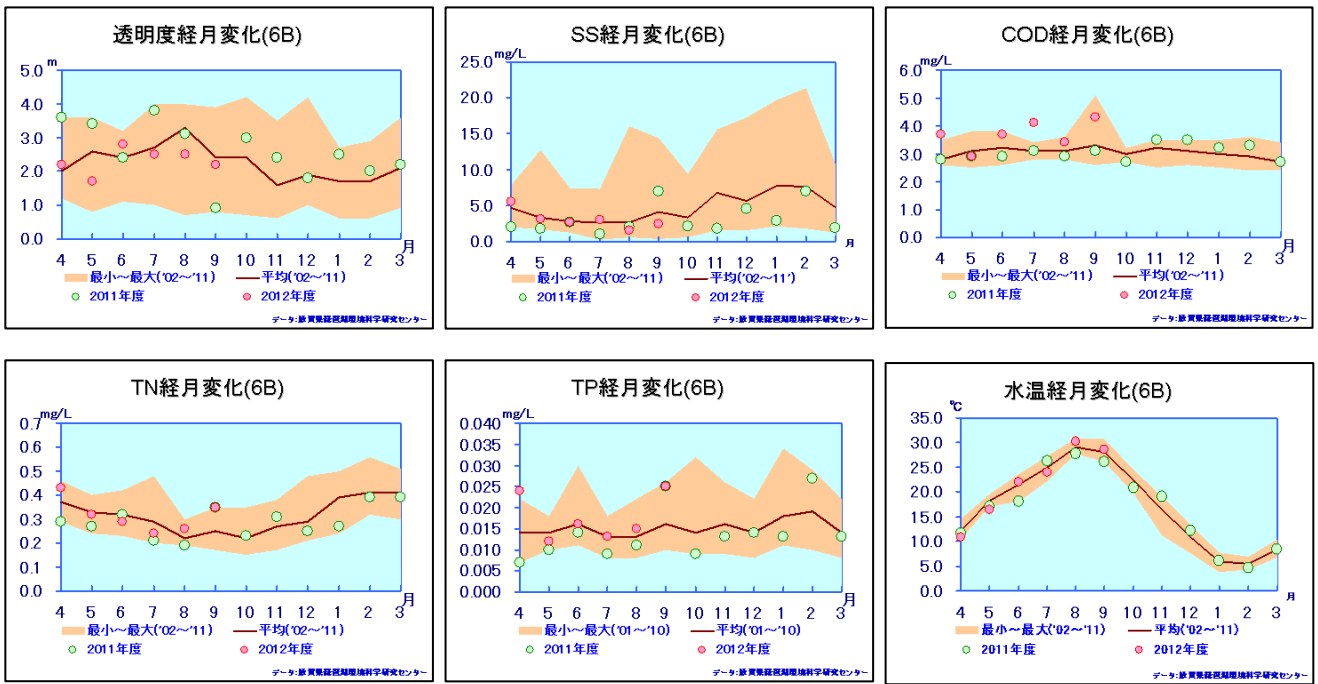
また、浮遊物質(SS)の推移を見ると、7 月は過年度平均値並の値となりましたが、8 月、9 月は過年度平均値より少し低い値でした。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、7 月が過年度最大値よりかなり高い値を示しました。この時期に緑藻のスタウラストルムが増加しており、その結果 COD が増加したものと推測されます。

8 月は概ね過年度平均値並の値でしたが、9 月には過年度平均値よりも高い値を示しました。これはマイクロキスティスなどの藍藻が増加した結果であると推測されます。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、7 月、8 月は概ね過年度平均値並の値でしたが、9 月は過年度最大値並に上昇しました。全りん(TP)は、7 月、8 月は過年度平均値並の値でしたが、9 月は過年度平均値よりも高い値となりました。これらの 9 月の値の増加は、増殖したマイクロキスティスによる影響と推測されます。

水温は、7 月は過年度平均値並みの値でしたが、8 月、9 月は過年度平均値よりも高い値でした。



○ 今津沖中央調査結果

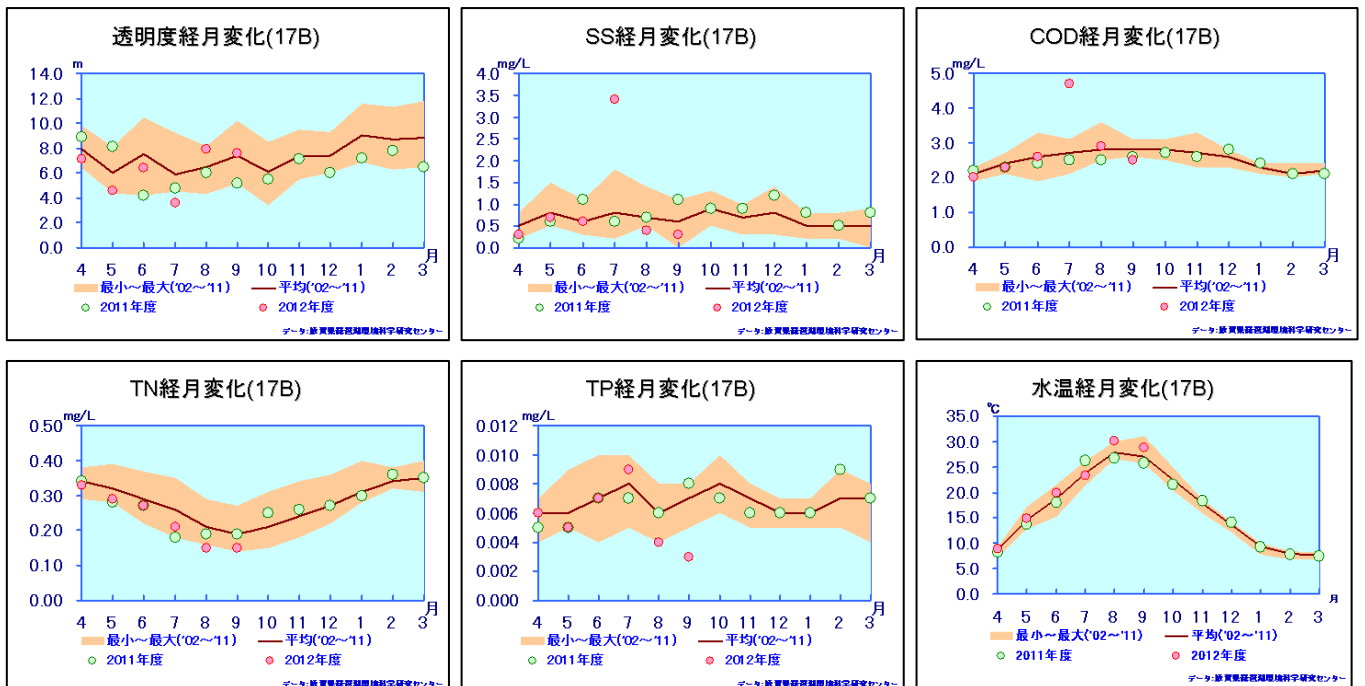
透明度については、7月は過年度最小値よりも低い値となりましたが、8月、9月は過年度平均値並みで推移しました。透明度に関連する項目であるSSについてみると、透明度が低下した7月に過年度最大値よりもかなり高い値を示しました。これは7月に緑藻であるスタウラストルムが大増殖したことにより、透明度の悪化とSSの上昇をもたらしたものと考えられます。

CODについても、7月はスタウラストルムが増殖した影響により過年度最大値よりもかなり高い値を示しました。その後8月はほぼ過年度平均値並の値に戻り、9月は過年度最小値より低い値となりました。

全窒素は、7月から9月にかけて過年度最小並の低い値で推移しました。スタウラストルムの増殖により硝酸性窒素が消費されたことによって、全窒素濃度が低下したものと推察されます。

また、全りんは、7月は過年度平均値より高めめの値となりましたが、8月、9月は過年度最小値よりも低い値となりました。これは7月にスタウラストルムが増殖した際にリンが取り込まれ、その後スタウラストルムが表層から沈降したことにより、全りんも低下していったものと推察されます。

水温は、7月は過年度平均値並みの値でしたが、8月9月は過年度平均値よりも高い値でした。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 公共用水域担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc31400@pref.shiga.lg.jp